**「アジア経営研究」第29号用原稿テンプレート**

【ここには，レイアウト枠が，レイアウト上10行分として，設定されています。このレイアウト枠内にはタイトルのみを記載してください。】

【氏名・所属は「投稿用シート」に明記してください，この原稿本体には記さないでください。】

【空白行などは最終的に出版社で調整します。このレイアウト枠を拡大・縮小しないようにしてください。】

【この行はレイアウト枠の最終行です。】

**Abstract**

 Please keep the abstract within 300 words. Selec Times New Roman. The font is 9 point size.

(英文300ワード以内で論文要旨を記してください。フォントはTimes New Roman9ポイントを使用してください)

キーワード：（３つから６つの範囲内で，カンマで区切って列挙してください）

1. **はじめに**

　このファイルは，マイクロソフトワード（Microsoft Word）（以下，MS-WORD）用の簡単なテンプレートになっています。

1. **テンプレートについて**

　このテンプレートでは，用紙サイズ(A4)，余白(上余白30mm，下余白25mm，左右余白25mm)が設定されています。これをベースにしてご執筆ください。

1. **原稿の作成**

　マイクロソフトワード（Microsoft Word）で論文を作成し，原則的にこのフォーマットにしたがってください。なお，この書式の余白や文字領域については変更しないでください。

1. **原稿の提出先・締切**

　編集委員会との原稿のやりとりは原則的にメールの添付ファイルで送受信します。最終原稿は，電子ファイルをメールに添付して提出してください。

初稿の締切：編集委員会から指定された期日までに以下の提出先まで送信下さい。

提出先： **jsaameditor@gmail.com**

1. **本文の書き方**
2. **文字数など**

　1行あたり44字で，１頁に41行でお書きください。また，本テンプレートはA4サイズです。機関誌『アジア経営研究』に印刷するときには，B5判，2段組みとなりますのでご了承ください。句読点は，邦文の場合「。」と「，」（両方とも全角文字です）を使用してください。「，」は使用しないでください。

**掲載頁数は以下のように定められています。「基本掲載ページ数」とは，それぞれの原稿の種類に対する目安の字数と頁数となります。「最大掲載頁数」とは掲載できる頁数の上限です。**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **原稿の種類** | **基本掲載頁数（目安字数）** | **最大掲載頁数（目安字数）** |
| **論文・展望（全国大会統一論題報告者）** | **14(24,000)** | **16(27,500)** |
| **論文・展望（それ以外の投稿者）** | **12(20,500)** | **14(24,000)** |
| **研究ノート（全国大会統一論題報告者）** | **14(20,500)** | **16(27,500)** |
| **研究ノート(それ以外の投稿者)** | **12(20,500)** | **14(24,000)** |
| **書評・文献紹介** | **3（4,500）** | **4 (6,500)** |
| **講演** | **14(24,500)** | **16(28,000)** |

**タイトルや注のフォントの大きさに違いや表，図の数や大きさの違いがありますので，できあがりの最大頁数を厳守願います。**

1. **匿名性の保持**

　執筆者が特定される表記法を用いないでください。たとえば，引用の際に自身が執筆した論文を「拙稿」と呼んだり，「私は以前に……と指摘したことがある」などと本文で表記して，自分の論文を注記したりすることは避けてください。自分の論文を引用する際も，他者の論文と同様に扱ってください。例えば鈴木という研究者が自分の過去の研究を先行研究として扱う際には，「私はかつて，……であることを明らかにした」とは書かずに，「鈴木（2010）によって，……であることが明らかになった」などと記してください。また，投稿時点では，謝辞や研究助成などでも執筆者が特定できるような記載は避け，採択後の最終原稿に記載して下さい。

　提出前にファイルのプロパティをご確認ください。プロパティに原稿作成者の氏名が含まれないようにしてください。（削除の方法の説明は，初稿依頼時のメールに添付されています。）

1. **漢字・仮名づかい**

常用漢字・新字体・新仮名づかいを用いることを原則とします。固有名詞・引用文等やむをえない場合に限り，この原則によらなくても結構です。

1. **人名，地名**

人名・地名については，日本語表記（漢字またはカタカナ書き）とします。ただし，国内に定着していない人名・地名は，原則として英語綴りの表記を括弧内に併記してください。【例：トゥアン（Tuan）】

1. **節見出しなど**

　　見出しは，以下の順序で付けてください。

**・**節見出し（３行分の前後１行アキ）　１，２，３・・・

　・項見出し（２行分の前１行アキ）　（1），（2），（3）・・・

　・項以下の見出しがある場合　①，②，③

　・さらに下のランクの見出しがある場合は，ａ，ｂ，ｃを用いてください。

1. **フォントについて**

　使用するフォントの種類や大きさは原則としてこのテンプレートに従ってください。

フォントの種類：

　このテンプレートでは，邦文はタイトルと各見出しのみMSゴシック（太字），その他はMS明朝です。英字はすべてTimes New Romanです。

フォントのサイズ：

タイトル（日本語）　　　　　17ポイント

　著者名（日本語）　　　　　 11ポイント

　本文　 　　　　　 10ポイント

 節見出し　　 　　　　　 14ポイント

　項見出し　 　　　　　 12ポイント

　 注および引用文献　　　　　　 ９ポイント

1. **図と表について**

　図と表の番号は，以下の例を参考に（表番号 を表の上に，また図番号は図版の下に表記してください）太字で**図１**，**表１**などとしてください。

　表や図のタイトルを表や図の中に組み込まないようにしてください。

　図はカラーでも結構ですが，事前にモノクロ印刷を行って，できあがりを確認してください。

　図がうまく所定の位置に入らない場合は，まずマウスで図を選択し，右クリックでメニューを出し，「オートシェイプの書式設定」を選び，その中の「レイアウト」を選んで，「四角(Q)」を選択すると，図形を好きな位置に移動できます。

図表の作成例：

13%

25%

30%

44%

0%

5%

10%

15%

20%

25%

30%

35%

40%

45%

50%

2000年度

2001年度

2002年度

2003年度

**図1**図の例

出所：関満博（1996），p.55。

その他の注意：

1. 図版をコピー・ペーストして本文に組み込む場合，端の部分が切れたり，文字が重なり合ったりしないように注意してください。
2. 図をコピー・ペーストして本文に組み込むことが出来ない場合は本文の欄外に図表の挿入箇所を示すとともに，挿入箇所に必要な行数をあけ，別紙にプリントした図表を添付してください。

③　図版の中の文字や数字・記号が読めないほど縮小しないでください。

表組みの単位表記：

　表中の数値の単位が同一の場合，表のタイトルの横にその単位（例えば％など）を書いてください。（表中の数値全てに％などを付ける必要はありません。）必ず表のタイトルの横に単位を入れるか，表の下に「注」を入れて単位を示してください。

**表1**　表の例(%)

|  |  |
| --- | --- |
| 企業名 | 社外取締役における女性比率 |
| A | 17 |
| B | 15 |
| C | 11 |
| D | 10 |
| E | 11 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　出所：著者作成。

図表の共通注意：

　図表の下にクレジットを入れる場合には「出所」と表記してください。なお，図のタイトルは図版の下に，表のタイトルは表組み上に記載してください。また，本文中および図表中の数値・文字・記号は必ず整合性を図ってください。

1. **数式について**

　数式は原則として，MS-WORDに組み込まれている数式エディタを使ってください。以下にサンプルを示します。



 　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(1)

数式にはこの例のように右隅に番号をつけてください。

1. **本文中での引用文献の表記について**

　引用文献の表記法は，**APAスタイルを基準とし、**英語以外の文献を引用する際も同じスタイルで記してください。本文や注の中では著者の姓と発行年，引用箇所の頁を表記し，論文末尾の引用文献リストで書誌情報を全て表記する方法をとります。

　本文中の引用は，引用箇所に日本語論文は全角括弧，英語論文は半角括弧をつけ，著者の姓，発行年，引用箇所の頁を順に表記して記します。なお，著者の出身地域において，姓を記す表記法が一般的でない場合は，当該地域の慣行にしたがってください。

　文献を列挙する場合は読点またはカンマで区切ります。対象に邦文の文献が含まれる場合は全角の読点で区切り，欧文文献のみが列挙される場合は半角のカンマと半角スペースで区切ってください。

例：単一文献を指示する場合

と指摘されている（佐藤，2005）。

と指摘されている（佐藤，2005，pp.25-27）。

と指摘されている (Porter,1990, pp.223-228)。

例：複数文献を指示する場合

と指摘されている（佐藤，2005，鈴木，2008）。

と指摘されている（佐藤，2005，pp.25-27，Porter,1990,pp.223-228）。

と指摘されている (Smith,1983,p.3, Porter,1990,pp.223-228)。

例：翻訳文献の頁番号を指示する場合

と指摘されている（Smith,1983,田中訳pp.118-119）。

例：文章の一部で複数の著者を引用する場合

佐藤・鈴木（2020）によれば

Bartlett and Ghoshal(1989)によれば

例：複数著者の引用を括弧で囲む場合

と指摘されている（佐藤・鈴木，2020）

と指摘されている(Bartlett & Ghoshal,1989)

例：文章の一部で3名以上の著者を引用する場合，

佐藤ほか（2005）によれば

Bartlett et al. (2020) によれば

例：3名以上の著者の引用を括弧で囲む場合

と指摘されている（佐藤ほか，2005）。

と指摘されている (Bartlett et al., 2020)。

注の中で文献を紹介する場合については，「8. 注の書き方」を参照してください。

1. **本文中における中国語表記の仕方については，当分の間，以下の通りとします。**

　①中国語の専門用語を日本語で示す場合は，原則として日本語に翻訳した言葉で表記してください。【例　合弁企業，会社】 ※ 注：一般名詞としての「合弁企業」を，中国語を日本の漢字に置き換えただけの形で「合資企業」と記述するのは不可ですが，これを「合弁企業＜合資企業＞」と記述するのは差し支えありません（以下の③を参照）。また，日本の「会社」概念と中国の＜公司＞概念を厳密に区別する論文において，両者を使い分けるのは差し支えありません。

　②すでに日本語として定着している中国語の場合は，とくに日本語に翻訳せず，そのまま日本の漢字で示しても結構です。【例　郷鎮企業，単位制度】

　③もとの中国語を表示する必要がある場合は，その日本語訳に続けて中国語表記を＜　＞内に付記しても結構です。その際，漢字は可能な限り日本の漢字に置き換えてください。不可能なものは，特に必要がある場合は中国語の漢字で構いません【例　経営学＜管理学＞，取締役＜董事＞，ともに豊かになる＜共同富裕＞，株式会社＜股份有限公司＞】

　④日本語としての定着が十分でなかったり日本語への翻訳が困難であったりするような中国語の専門用語は，その用語を日本の漢字にそのまま変換した言葉もしくは日本語に試訳した言葉を「　」で括って示し，初出のさいに原語綴りの表記を＜　　＞内に付記してください。さらに必要であれば，それに続いて用語の意味を（　）でくくって付記しても結構です。【例　「筆頭株主突出」＜一股独大＞，「抓大放小」（大をつかまえ，小を放す）】

1. **韓国・朝鮮語の人名表記については，当分の間，以下のとおりとします。**

　①韓国・朝鮮語の人名については，以下のどちらかの表記法を用いてください。

1)論文中に登場する全員について，姓・名ともカタカナ表記する。

2)姓・名とも漢字表記が判明している人物については漢字で表記し，それ以外の人物については姓・名ともカタカナ表記する。

　②特別な事情，または学術的な理由により，上記のいずれとも異なる表記法をとることを希望されるときには，原稿提出時に編集委員会にその旨をお伝えください。

1. **日本語を母語としない執筆者の方へ**

日本語を母語としない執筆者が日本語で原稿を投稿する際には，投稿の前に日本語を母語とする者の校正を受けた上で編集委員会へ提出してください。チェックを受けていないと思われる投稿論文は受け取りを拒否しますので，くれぐれも注意してください。

1. **英語を母語としない執筆者で英語論文を執筆する方へ**

英語を母語としない執筆者が英語で原稿を投稿する際には，投稿の前に英語を母語とする者の校正を受けた上で編集委員会へ提出してください。チェックを受けていないと思われる投稿論文は受け取りを拒否しますので，くれぐれも注意してください。

1. **注の書き方**

（注の文字サイズは9ポイントですが，ここでは読みやすくするために10ポイントにしています）

　注の句読点も，邦文の場合「。」と「，」（両方とも全角文字です）を使用してください。「、」は使用しないでください。

1) 本文中の当該箇所の右肩に1)，2)のように付けてください。ワードでは「上付文字」です。
2) 注は，本文の末尾にまとめて付けてください。
3) 注の文は，番号ごとに改行してください。一つの注の中では改行しないことを原則とします。

4) 注において文献を記載する場合も，佐藤（2005）のように記してください。

例

12) この政策について，肯定的に紹介した研究として佐々木（2004），否定的に紹介した研究としてSato(1999)がある。

1. **引用文献の書き方**

（引用文献の文字サイズは9ポイントですが，ここでは読みやすくするために10ポイントにしています）

・引用文献は、**APAスタイルを基準とし、英語以外の文献も同じスタイル**で記してください。

・**引用文献は，1), 2)のように通し番号を付けてリスト化してください**。数字は半角を使用してください。括弧は全角を使用してください。

・まず日本語文献を著者名の五十音順に記し，続いて英語文献を著者名のアルファベット順に記し，その後にその他の言語の文献を当該地域の慣行にしたがった順に記してください。同一著者の文献が複数ある場合は，刊行年月日の古いものから順に記してください。通し番号は全体を通して一組としてください。

・日本語雑誌論文の場合。発行団体を記してください。

江戸川昇（1995）｢台湾半導体企業の技術開発システム｣『イノベーション研究』第20号，イノベーション学会，pp.23-35。

ゴードン，A（2006）「ポスト2012に向けた温暖化防止のための国際交渉」『外交問題』7月号，学路書店，pp.210-222。
・大学紀要の場合も，できるだけ発行団体名の記述をお願いしますが，大学名でも可とします。

佐々木玲子（2008）「中国における民営化と企業統治」『経済研究年報』第8巻第1号，東南大学経営学会，pp.145-169。

佐々木玲子（2008）「中国における民営化と企業統治」『経済研究年報』（東南大学）第8巻第1号，pp.145-169。

・日本語単行本の場合
佐藤はるか（1996）『中国改革・開放政策の史的展開』新世界。

・日本語編書の一部の場合
西野博彦（1990）｢東アジアにおける日本企業の役割｣（鈴木和郎編『アジア企業経営の新展開』日之出書房，pp.100-126）。
・翻訳文献の場合。邦文文献の扱いに準じます。

スミス，C（高橋真央訳）[1975]『日本の企業再生』太陽書店。

・欧文雑誌論文の場合
Clark, K.B. (1992). Product Development Performance, *Harvard Business Review*, *88*, 10-22.
・欧文単行本の場合

Bartlett, C. A. & Ghoshal, H. (1989). *Managing Across Borders: The Transnational Solution*, Harvard University Press.

・欧文編書の一部の場合
Dunning, J. H. (1992). Multinational Investment in the EC. In Cantwell, J. (Ed.). *Multinational Investment in Modern Europe* ( pp. 346-350). Edward Elgar.
・欧文文献の邦訳を併記する場合
Dunning, J. H. (1992). Multinational Investment in the EC. In Cantwell, J. (Ed.). *Multinational Investment in Modern Europe* (pp. 346-350). Edward Elgar.（J.H.ダーニング (黒川文子訳)（1996）｢ECにおける多国籍企業の投資｣ (黒川保美訳『現代ヨーロッパにおける多国籍企業の投資』日高書房，pp.369-396).
・中国語等欧文以外の場合。前記の例に準じて記述してください。漢字の使用法は本文の例にならってください。

藍発欽（2001）『中国上市公司股利政策論』華東師範大学出版社，p.123。

・インターネット情報の場合。URLと検索年月日を明記してください。

地域再生研究会(2008)『地域再生のイノベーション』情報産業省(http://www.moi.go.jp/press/20080513002/20080513002-1.pdf)，2008年9月23日アクセス。

OECD (1999), Principles of Corporate Governance (http://www.oecd.org/dataoecd /47/50/4347646.pdf), Retrieved 2006.09.15.
・単行本の場合には頁数は不要です。雑誌論文，編著収録論文の場合は最初と最後の頁を記してください。

・同一著者の同一発行年の文献が2つ以上ある場合は，刊行月日の古いものから順に(2005a)(2005b)のように記してください。

・通頁のみの雑誌は，号数表示を省くか（　）に入れて添え書きした上で，通頁で表示してください。各号ごとの頁と通頁と両方ある雑誌も，この例にならってください。

・逐次刊行物の多数の版を使用した場合は，（各年版）または(various years)のように記してください。

・逐次刊行物の版の年次と実際の発行年が一致しない場合（2008年に2007年版が発行されるなど）は，版の年次を優先させて，（2007年版），（2007 ed.）のように記してください。

・欧文単行書の書名，欧文雑誌の雑誌名は必ずイタリックにしてください。

・欧文文献の著者名が2人以上の場合は，全員についてラストネームを先行させます。

Gordon, C.Y. & Hill, K. A. (1994). Capital Investments in U.S. Companies 1980-2000, *Business History Journal*, *66*(2), 23-49.

1. **謝辞**

　査読者に対する謝辞は記載しないでください。研究助成金交付元を明記する際に謝辞を述べることなどは構いません。

1. **おわりに**

以上，本テンプレートにしたがって原稿作成をお願いします。不明な点に関しましては，

**jsaameditor@gmail.com**まで，ご連絡ください。

**注（見本。以下の文字の大きさは９ポイントです）**

１）本文中の当該箇所の右肩に1)，2)のように付けてください。ワードでは「上付文字」です。
２）注は，本文の末尾にまとめて付けてください。

**引用文献（見本。以下の文字の大きさは９ポイントです）**

引用文献には，必ず通し番号を記してください。

1) 江戸川昇（1995）｢台湾半導体企業の技術開発システム｣『イノベーション研究』第20号，イノベーション学会，pp.23-35。

2) 佐藤はるか（1996）『中国改革・開放政策の史的展開』新世界。

3) Gordon, C.Y. & Hill, K. A. (1994), Capital Investments in U.S. Companies 1980-2000, *Business History Journal*, *66*(2), 23-49.